様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３３２００７３

研究課題名（和文）漂泊する叙事　１９４０年代中華圏における文化接触史

研究課題名（英文）Wandering Narration

研究代表者
濱田　麻矢（Hamada, Maya）

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：９０２９３９５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,500,000円、（間接経費）　　2,550,000円

研究成果の概要（和文）：　日中戦争勃発の1937年から東アジアに冷戦体制が確立する1952年までを対象にして、中華圏における文化文芸の諸相に、文学テクスト・メディア分析・体制分析という三つの角度からアプローチした。2011年には移民研究についての勉強会を行い、2012年には40年代の女性形象についてシンポジウムを行った。また2013年は名古屋で、2014年には北京で研究集会を行い、文学、映画、演劇、音楽、などのメディアについて、日・中・台・米・シンガポール・マレーシアの研究者が集まり、横断的な討論を行った。なお、この研究成果は現在翻訳中で、2015年に論文集として出版予定である。

研究成果の概要（英文）：Our subject of research was connection between Communist Party, National Party, and Japanese controlled areas in China, between 1937, when the 2nd Sino-Japanese war broke out, and 1952, when the CP began to rule the whole of China. In 2012(Kobe), 2013(Nagoya) and 2014(Beijing) symposiums are held to examine art, literature and entertainment during this period and researchers from Japan, mainland China, Taiwan, the United States, Singapore and Malaysia joined these symposiums and Discussed to get new findings. These research activities are currently being translated and are intended to be published in 2015.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：一九四〇年代　多言語　文化接触　日中戦争　太平洋戦争　国共内戦

１．　研究開始当初の背景

戦火の続いた1940年代は、漢字文化圏にとって苦難の時代であったとともに、漂泊の時代でもあった。多くの人々が流亡と離散を余儀なくされた結果、表現者たちは自分の体験をもとにしたさまざまなジャンルによる叙事を産み出したのだが、そうやって生まれた作品そのものもまた、しばしば政権による分断を越えて遥かな旅をすることになったのである。本研究は、最終的に中国・満洲・台湾・香港・東南アジアなどの中国語圏全体をとりあげ、特定のイデオロギーに縛られることなく併存させて述べた1940年代の文学史（文化史）を目指すものである。

２．　研究の目的

本研究の着想の根底には、基盤研究（C）「1940年代中華圏における文学の複数性―地域・メディア・制度の視覚から」を進めていく中で、「漂泊」という概念がメンバーの共通認識として浮かんできたという経緯がある。共同研究の中で、1940年代には多種多様な価値観をもった文化状況がさまざまなメディアの上で並存し互いに影響を及ぼしあい、また流動性をはらんで、民族的困難の中にありながら特異な様相を呈し、その中のあるものは独特の深化をとげていることが明らかになった。また、40年代文学の可能性とは、まさにこの分断の中から生まれてきたこと**―分断され、扼殺されたかのように見えたマージナルな場所に現在まで読み継がれる作家が出現し、香港のように「文化砂漠」と評された都市に、中国語地区の人々を広く魅了するようなハイブリッドでモダンな映画が制作される基盤が作られた。作家中心、作品中心の研究から一歩進んで、この「漂泊」の動線そのものに注目することで、40年代中国語圏の文化状況をより立体的に、横断的に捉えることが可能になるはずであると考えた。**

３．　研究の方法

⑴ 40年代における使用言語の複数性と地域体験の複数性についての分析

この時代、使用言語の複数性として際立っているのは帝国日本における「国語」と中国大陸に生まれつつあった「国語」、つまり日本語と書き言葉としての中国語白話文とのせめぎあいが顕著であった台湾及び満洲、淪陥区の例である。さらには1940年代に延安を目指した知識人が、どのように自分の文体を「文芸講話」路線に沿うものとして「改造」しえたのか／しえなかったのか、という課題も「漂泊」体験が引き起こした「言語の複数性」として考えることができよう。

そこで、まず40年代のこうしたテクストをできるだけ収集した。さらに植民地香港への漂泊という体験から蕭紅と張愛玲を、南洋への漂泊者として郁達夫を、新天地延安への漂泊者として丁玲や卞之琳を、西南への漂泊者として沈従文や聞一多、汪曾祺などがいる。さらに時代を下った、台湾への越境を果たした朱西寧や林海音、最終的に日本にやってきた陶晶孫などの存在も取り入れた。

これらのテクストの分析においては、当然使用言語とそこにまつわる地域体験を勘案する必要がある。バイリンガル作家としては、台湾の日本語作家のほか、作家生活を英語創作で始めた張愛玲のような例もあるからだ。これらの作品の分析には「何が」書かれているかというテーマ分析と同時に、「何語で」「どのような文体で」「どのような雑誌に」作品が発表されているか、また誰が受容していたのかという点が欠かせないだろう。

さらに、中国語圏ではないが日本側からの記述―大東亜文学者大会の開催や中国その他の地域への旅行記、日本にやってきた中国語圏作家との接触の記録なども貴重なテクストとなる。

⑵　文字テクスト以外の各ジャンルについての横断的考察

40年代、多くの都市において観客を獲得した映画にも、多くの映画人、映画俳優たちの「漂泊」の痕跡を見ることができる。例えば桑弧や趙丹の回想録は、1940年代の上海映画界を知る上で大きな手がかりを与えてくれる。その一方で、西洋発祥のモダンな娯楽とともに、中国の伝統演劇もまた根強い人気と影響力を持っていた。こうした文字には残されてない文化的プロダクツについても、当時の新聞や雑誌、チラシなどから上演の形態と市民へ与えた影響を掘り起こし、複数のジャンルで活躍した文化人や小説を中心とする文壇とのネットワークなどを明らかにした。

⑶　大陸の中心「制度」から見た40年代の考察

上記AやBで述べたような漂泊とモダニズムの潮流が中国語圏に押し寄せていたのと同時に、五十年代以降中華人民共和国を強力に統率してゆくことになる「文藝講話路線」が着々と押し進められていた。このように全く異なるイデオロギーが一つの国土に共存していたのも、1940年代の大きな特徴である。そこでさらに、戦略として選ばれた文藝形式（たとえば映画や音楽、歌劇など）に、解放区の外からの影響関係がどのように残されているかを検証する作業が不可欠となる。

４．研究成果

（1）ワークショップ

2011 年、関西学院大学梅田キャンパスにおいて華僑研究者宮原暁氏とラテンアメリカ文学研究者、松本健二氏を招いてワークショップを行い、人の移動と文化接触について中国文学以外の観点から知見を広めた。

また同じく 2012 年に、台湾で活躍するマレーシア出身の作家、黄錦樹氏の講演会を行い、一般からの聴衆も募って、マレー語／中国語、マレーシア／中国／台湾などの文化混淆状況や移民文学の可能性について話し合った。

（2）シンポジウム

40 年代という政治的にも文化的にも大きなうねりをもった時代を研究対象としたため、三回にわたり国際シンポジウムを行い、各地の研究者と交流を深めた。

まずは 2012 年 11 月、神戸大学にて『戦争と女性』と題したシンポジウムを行い、40 年代の中華文化圏という枠組みについて共通の認識を持つことを目指した。ジェンダーと戦争をテーマに、日、中、台、米の研究者で戦争描写の諸相について検討した。

2013 年 8 月には愛知大学にてシンポジウム『分裂の物語・分裂する物語』を開催、世界大戦及び中国の内戦が東アジア全域の文化に及ぼした影響について、地理的にも分野的にも討論の対象を拡大して徹底的に討論した。日・中・台・香港・シンガポール・マレーシア・米国から多くの研究者が集い、多くの問題を共有した。

2014 年 1 月には北京大学にてシンポジウム『集合離散の文学時代』とワークショップ『二〇世紀新生代』を同時開催、40 年代文学／文化について考えるまとめの機会をもった。なお、これらのシンポジウムで報告された論文は現在編集中であり、来年度に出版の見込みである。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

1．　絹川浩敏、「「売文社」としての大江書舗」、2014 年、『季刊中国』116、70-82 頁、査読有

2．　星名宏修、「「大日本帝国植民地と文学の言語」『華麗島文学志』とその時代」合評会コメント（2）」、2014 年、『言語文化研究』立命館大学 25-1、97-100 頁、査読無

3．　藤野真子、「越劇の老生―民国期の状況と発展の可能性」、2014 年、『言語と文化』17、関西学院大学言語教育研究センター、79-93 頁、査読無

4.濱田麻矢、「遥かなユートピア　王安憶『弟

兄們』におけるレズビアン連続体」、2013 年、『現代中国』87、33-45 頁、査読有
5.大東和重、「古都で芸術の風車を廻す―日本統治下の台南における楊熾昌と李張瑞の文学活動」、2013 年、『中国学志』28、27-57 頁、査読無
6.西村正男、「香港映画史再考―言語の視角から」、2013 年、『地域研究』13-2、66-87 頁、査読有
7.三須祐介、「もうひとつの『秋海棠』―上海滬劇史の一断面―」、2013 年、『広島経済大学研究論集』35-4、115-129 頁、査読無
8.今泉秀人、「書評『周作人と日中文化史』第 1 章日本文化へのまなざし」、2013 年、『中国文芸研究会会報』387、1-4 頁、査読無
9.松浦恆雄、「「民衆小説戯曲読本」について」、2012 年、『第二回日中伝統芸能研究交流会報告書　年のメディア空間と伝統芸能』、77-104 頁、査読無
10.三須祐介、「明滅し揺らめく欲望―林懐民「赤シャツの少年」を読む」、2012 年、『野草』90、121-140 頁、査読有
11.濱田麻矢、「女学生だったわたし―張愛玲『同学少年都不賤』における回想の叙事」、2012 年、『日本中国学会報』64、283-298 頁、査読有
12.濱田麻矢、「日本統治期台湾の女学生像―楊千鶴の日本語創作をめぐって」2012 年、『アジア・ディアスポラと植民地近代　歴史・文学・思想を架橋する』（勉誠出版）、169-189 頁、査読無
13.松浦恆雄、「黄錦樹の華語コンプレックス」、2011 年、『夢と豚と黎明　黄錦樹作品集』（人文書院）、363-369 頁、査読無
14.松浦恆雄、「四代名旦と特刊」、2011 年、『中国学志』26、1-23 頁、査読有

〔学会発表〕（計　30 件）

1. 濱田麻矢、「以愛為名–40 年代少女叙事中的浪漫意識形態」、2014 年 1 月 13 日北京大学、シンポジウム「聚散離合的文学時代」
2. 松浦恆雄、「程小林的故事―“橋”的結構」、2014 年 1 月 13 日北京大学、シンポジウム「聚散離合的文学時代」
3. 藤野真子、「越劇老生的形象―民国時期的発展状況」、2014 年 1 月 11 日北京大学、シンポジウム「聚散離合的文学時代」
4. 西村正男、「怎樣評價梁樂音與陳歌辛」、2014 年 1 月 11 日北京大学、シンポジウム「聚散離合的文学時代」
5. 松浦恆雄、「聴衆からみた電化教育―ラジオドラマを中心に―-」、頭脳循環プログラム・総括進歩時生む「東アジアにおける集団とネットワーク―伝統都市から近現代都市への文化的転回―」2013 年 12 月 6 日、大阪市立大学
6. 今泉秀人「楊振声と沈従文―青島大学時期を中心に」、2013 年 6 月 8 日、青島文芸研究会（京都エスペラント会館）
7. 今泉秀人「1940 年代の沈従文における“夢”と“現実”―「夢与現実」（1940）、「摘星録」（1941）、「看虹録」（1943）をめぐって」、2013 年 8 月 27 日、中国文芸研究会夏合宿、北海道大学
8. 三須祐介「オルタナティブな『秋海棠』―引き裂かれ、変奏される四〇年代叙事」、2013 年 8 月 4 日、愛知大学、シンポジウム「分裂の物語、分裂する物語」
9. 西村正男、「内なるアジア／外なるアジア―リム・カーワイ監督の無国籍映画から」、2013 年 12 月 13 日、大阪大学中之島センター、シンポジウム『Fly Me to Minami～恋するミナミが照らす世界』
10. 西村正男、Chen Gexin in the 1940s, 2013 WHA Fremantle Symposium, Empire: Faith and Conflict, 2013.10.5, The University of Notre Dame Australia
11. 西村正男、「怎样评价陈歌辛――兼谈对《玫瑰玫瑰我爱你》的反响」、2013 年 9 月 5 日、四川省社会科学院文学所、“抗战

时期的文化人”会议

12. 西村正男、「トルストイ『復活』と中国語映画」、2013 年 2 月 9 日、関西大学東西学術研究所、関西大学東西学術研究所研究例会「越境の映画史」
13. 西村正男、「混淆・越境・オリエンタリズム――玫瑰玫瑰我愛你(Rose, Rose, I Love You)の原曲とカヴァー・ヴァージョンをめぐって」、2012 年 5 月 19 日、関西学院大学大阪梅田キャンパス、日本ポピュラー音楽学会 2012 年第 1 回関西地区例会
14. 星名宏修「看護助手、海を渡る―河野慶彦「湯わかし」を読む」、2012 年 10 月 11 日、神戸大学百年記念館、シンポジウム「戦争と女性」
15. 濱田麻矢「一九四九年の語り方――龍應台『大江大海一九四九』」2012 年 10 月 10 日、神戸大学百年記念館、シンポジウム「戦争と女性」
16. 濱田麻矢「日治時代的女学生書写　以楊千鶴為中心」2012 年 6 月 2 日、台中修平科技大学応用語文学院応用中文系、シンポジウム「台湾文学与文化創意」
17. 濱田麻矢「生育は女の絆をどう変えるか―王安憶の描くレズビアン連続体」、2012 年 10 月 21 日、一橋大学、日本現代中国学会 62 回大会
18. 松浦恆雄、「「民衆小説戯曲読本」について」、2012 年 3 月 10 日、関西学院大学、第二回日中伝統芸能研究交流会
19. 今泉秀人、「沈従文作品における戦争と女性のイメージ――「夢と現実」、「摘星録」、「看虹録」をめぐって」2012 年 10 月 10 日、神戸大学百年記念館、シンポジウム「戦争と女性」
20. 今泉秀人、「沈従文と国語教科書編纂事業」、2012 年 6 月 9 日、摂南大学大阪センター、日本現代中国学会関西部会
21. 三須祐介、「戦争与「同志」叙事：従大島渚『俘虜』到明毓屏『再見、東京』」、2012 年 11 月 19 日、国立成功大学（台湾）、国立成功大学専題講演
22. 今泉秀人、「抗戦期の沈従文」、2011 年 7 月 31 日、関西学院大学大阪梅田キャンパス、中国文芸研究会 7 月例会
23. 三須祐介、「林懐民をクィアに読む」、2011 年 6 月 26 日、同志社大学、中国文芸研究会 6 月例会
24. 濱田麻矢「変奏される記憶―張愛玲の自伝的小説をめぐって――」、2011 年 11 月 9 日、九州大学、日本中国学会 63 回大会
25. 西村正男「台湾映画・侯孝賢と日本」、2011 年 6 月 28 日、関西学院大学、シンポジウム「侯孝賢映画から台湾、そしてアジアを知る」
26. 西村正男、「新居格と中国、そして台湾」、2011 年 10 月 7 日、中央研究院人文社会科学中心（台湾）、シンポジウム「日本文学中的台湾」

〔図書〕（計　9 件）

1. 西村正男、堀潤之・菅原慶乃編『越境の映画史』、関西大学出版部、2014 年、17-55 頁。
2. 濱田麻矢ほか、関西中国女性史研究会編『増補改訂版　中国女性史入門　女たちの今と昔』2014 年、人文書院、227 頁
3. 陳翠蓮・川島真・星名宏修主編『跨域青年学者台湾史研究　第五集』、2013 年、稲郷出版社（台湾）、606 頁
4. 前野みち子、星野幸代、西村正男、薛化元編『侯賢孝の詩学と時間のプリズム』、2012 年、あるむ、247 頁
5. 黎紫書ほか著、荒井茂夫、今泉秀人、西村正男、豊田周子訳『白蟻の夢魔』、2011 年、人文書院、101-163 頁
6. 松浦恆雄、『元刊雑劇の研究(二)』赤松紀彦ほか 8 名と共著、汲古書院、2011 年、262 頁。
7. 松浦恆雄『禅の味　洛夫詩集』洛夫著、松浦恆雄訳、2011 年、思潮社、226 頁。

8．星名宏修「「海外進出」とは何だったのか--紺谷淑藻郎「海口印象記」を読む」、陳建忠朱編『跨国的殖民記憶与冷戦経験—台湾文学的比較文学研究』2011 年、清華大学台湾文学研究所、全 530 頁、213-240 頁

9．星名宏修「「跳舞時代」の時代—台湾文学研究の角度から」、星野幸代・洪郁如・薛化元・黄英哲編『台湾映画表象の現在—可視と不可視のあいだ』2011 年、あるむ、全 255 頁（221-244 頁）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

濱田　麻矢（HAMADA MAYA）
神戸大学・人文学研究科・准教授
研究者番号：90293951

(2)研究分担者

宇野木　洋（UNOKI YO）
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：40168737

松浦　恆雄（MATSUURA TSUNEO）
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号：20173792

福家　道信（FUKE MICHINOBU）
近畿大学・文芸学部・教授
研究者番号：00156811

絹川　浩敏（KINUKAWA HIROTOSHI）
立命館大学・経営学部・教授
研究者番号：20288606

西村　正男（NISHIMURA MASAO）
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：80302652

今泉　秀人（IMAIZUMI HIDETO）
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：00263343

藤野　真子（FUJINO NAOKO）
関西学院大学・商学部・准教授
研究者番号：20332653

三須　祐介（MISU YUSUKE）
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：60339653

星名　宏修（HOSHINA HIRONOBU）
一橋大学・言語社会研究科・教授
研究者番号：00284943

大東　和重（OHIGASHI KAZUSHIGE）
関西学院大学・法学部・教授
研究者番号：6043859

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：

研究者番号：